

## マタイの福音書 6章 9-13節

## 主の祈り (2)

6:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。

6:10 御国が来ますように。みこころが天で行われるように地でも行われますように。

6:11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

6:12 私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。

6:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』〔国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。〕

はじめに

マタイ 6:9 「だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』

先週、この御言葉から、三つの根本的な真実・真理を見ました。イエス様はその三つの真実を全ての祈りの前提として教えて下さっています。神様は完全な愛を持って愛する父なる神様であると同時に、天と地の主として全ての主権を持っておられます。最後には、祈りは神様の聖なる御名に栄光を返す為に感謝と共に捧げることの大切さを見ました。先週と同じようにルカ福音書 11章と比べながら、今日はマタイ 6:10 を中心にして見て頂きたいと思います。

マタイ 6:10 「御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」

### 1. 御国が来ますように。

イエス様は御国が来ますように、というのと同時に神の国が既に来ていると言われました。主の祈りが記録されている唯一のもう一箇所を見てみると、その続きにとして書いてあります。

ルカ 11:2 「そこでイエスは、彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。『父よ。御名があがめられますように。御国が来ますように。』

その続きを見てみると、祈りについて話し続けたすぐ後で神の国が来ていると言っています。

ルカ 11:20 「しかし、わたしが、神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、神の国はあなたがたに來ているのです」。

この2つを合わせて解釈したら、既に来ているという意味は靈的に來ているけれども、神の国が増々来るように祈りなさいと教えているということです。

旧約聖書の預言を見れば、メシヤと呼ばれている救い主によって神の国が完全な形で地上に來る時が預言されています。ですから、この真実を二つの段階があるという意味として適用することが出来ます。

イザヤ書 11:1節から書いてありますが、今全部を読む時間はありませんので、中心の部分だけを読みましょう。後で、ご自身で時間がある時に、11章全部を是非読んで頂きたいです。

イザヤ書 11:9-10. 「わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。

11:10 その日、エッサイの根は、国々の民の旗として立ち、国々は彼を求め、彼のいこう所は栄光に輝く。」

「エッサイの根」とは、イスラエルのダビデ王のお父さんであるエッサイの家系で、ダビデの子孫として生まれたイエス様の事を指しています。イエス様によって「主を知ることが、海をおおう水のように地を満たすから」です。この地上が罪からきよめられて初めて世界の平和が実現されます。皆さんが望んでいる世界平和が実現される時があるわけですが、この世の政治家によっては実現されません。聖書の預言では、反キリストと呼ばれている人物が悪魔の力によって偽物を世界平和と

見せかけて世界中の人を惑わす時が来るという預言があります。しかも、偽預言者と呼ばれている人物、つまり宗教の指導者の協力によって偽物の世界平和を実現します。本当の世界平和はイエス様が再び来て実現するまでは来ないので、イザヤ書の平和の君と呼ばれている救い主であるイエス様が真の世界平和をもたらす時、動物であっても、二度と害を加えられる事はありません。

この時について、それがいつになるかを誰も知りませんが、イエス様が再びこの地上に来られる時に定まっています。弟子達にそれについて聞かれた時に、イエス様は「父なる神様だけが知っている」と答えられましたから、既に定まっています。当然、私達が祈る事によってその時が影響される事も出来ません。

それなら、なぜ、御国が来ますように祈るように教えているかについて考えさせられます。私達に出来る事は、先ず第一に神様の御国を自分の心の中に受け入れて、神様の支配の中で生きる事によって、今、その平和を個人の体験として知る事です。それから、神様の聖霊によって霊的な意味で神の御国が家族や友人や周りの人々の心にも来ますようにと祈る事です。つまり、周りの人々が個人的にイエス様を受け入れられますように、ということ優先的に祈りなさいと言われていています。先週も言いましたが、神様から欲しい物をもらうのが祈る最大の目的なのではなくて、御心と一つになるのが第一の目的です。別の箇所でも先ず初めに全ての人々の為に祈りなさいとあります。

テモテ第一2:4「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。」人の救いの為に、つまり、神様の聖霊によって人の心に神の御国が受け入れられるようにと祈る時、それが御心に沿って祈っている事だと確信出来ます。

先程、イザヤ書の預言で見たような完全な形で神の御国はまだ来ていませんから、今は、聖霊によって霊的な意味で神の御国が一人でも多くの人々の心に来るように祈りなさいと教えられています。イエス様の主の祈りの続きを見てみると、更に神の御国の働きを自分の好き勝手な方法で進めてはいけないことが教えられています。

## 2. 「みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」-完全な服従

マタイ6:10 「御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」ルカの福音書は省略した形でこれを含めていませんが、マタイの福音書は御国が来ますように、の続きとして、その意味を正しく理解する為にイエス様の言葉を全部含まれた形で記録しています。つまり、神の御国が自分の心に来る事も、そして、自分がこの地上の神の御国の前進に貢献する事も、その全ては自分自身が神の御心に服従する事によるということです。誰も、先ず、神の御心を受け入れていないなら、真心でこの祈りを捧げる事が出来ません。もちろん、神様の御心を受け入れて服従するのはイエス様を自分の救い主として信じて、そして人生の主として受け入れる事から始まります。

10節の後半は前半の結果であると同時に、それを実行する具体的な説明を教えてください。神様の御国がどのようにして来るのかということと同時に、この地上でどのように御国が働くかを教えてください。

私達は祈りと聖書の真理によって御心が分かり、それに服従するなら、聖霊が私達を通して神様の御国を進めさせて下さいます。それ以外の力で神様は御国の働きを進ませてもらいません。なぜなら、人間の傲慢が出て高ぶってしまい、神様の栄光にならないからです。聖書に書いてある通りです。

ヤコブ4:6「しかし、神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」

神様のひとり子であるイエス様でも、その方法で神の御国をこの地上にもたらして進められました。最高の手本を見せて下さったのです。

ピリピ人2:6-8「キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、2:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。2:8 キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。」

神様のひとり子でも、この地上で御心に服従しました。「自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。」イエス様以外に誰も、自分から進んでこの方法を選ぶ人はいません。私達は自分の力で戦って、もっと格好良いやり方、または、もっと周りの人々に認められる自己満足的なやり方で神様の御国を進めたいと願ってしまいます。

イエス様の弟子の中でその実例を見ることができます。最後の晚餐まで自分達の間で誰が一番偉くなるかという議論をしていて、その直後でゲッセマネの庭でイエス様が逮捕される時に、ペテロは剣を取り出して命をかけて戦ったのに、そのすぐ後で、一人の女の子にあなたは彼の弟子でしょうと言われて大失敗をしました。その原因は、人間的な力に頼って格好良くて英雄的なら死んでもいいが、神の御心に服従するのは格好よくない、というような姿勢です。私達はイエス様の信者として格好いいやり方、人に認められて評価されるやり方や、英雄的なやり方なら、イエス様の為に犠牲払ってもいいと思いますが、御心に服従するなら、大半の人には認められないし、英雄にはなりません。自分の好き勝手な方法で犠牲を払っても、神様に認められないし、自分の犠牲を払う場所も、自分で決める権利も無いのです。自分の権利を全て神様に捧げて御心に服従する事しか認められません。幸いに、ペテロの失敗とイエス様の彼に対する取扱いは私達にとって大きい励ましになっています。酷い失敗をしても、イエス様はそれによってペテロを見捨てることなく、逆にその経験を通して服従する大切さを教えて、そしてその経験を用いて彼が多くの人々の力になるように用いて祝福に変えて下さっています。神の御国の働きに貢献するのは、信仰の霊的な戦いなので、その武器も霊的な武器です。

コリント第二**10：3-5**「私たちは肉にあって歩んではいても、肉に従って戦ってはいません。**10:4** 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるもので**10:5** 私たちは、さまざまの思弁と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち砕き、すべてのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させる、」

最後の部分の「全てのはかりごとをとりこにしてキリストに服従させる」の原語は、目的や作戦、と訳される事もあります。神の御国の働きを前進させる為に、自分勝手な思いや計画は通用せず、「神様の為に私はこうしたい」ではなくて、「神様、あなたは私に何を望んでおられますか」と言う祈りの心を持って、御心に従うから、示して下さいと言う姿勢が大切です。

ゼカリヤ書**4:6**「すると彼は、私に答えてこう言った。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって。』と万軍の主は仰せられる。」

残念ながら、教会の歴史で人間的な力で、または、政治的な権力によって神の国の働きを自分の都合のいいように利用しようとした人達が大勢います。

**4世紀**のローマ皇帝コンスタンティンは一番分かりやすい実例ですが、政治の権力が教会に入って教会が堕落して、大勢の人が偽物の教会によって殺されてしまいました。

先週に証をしたように、私はクリスチャンの政治家によって助かった事もあるから、その分野でクリスチャンがいい働きが出来るのを認めています。教会の中に政治を持ち込んではいけません。若い時に、そちらの結果も見て来た経験があります。**3000**以上の人々が殺されて、**35**年間紛争を続けさせることになりました。残念ながら、今でも、教会に政治を持ち込む人達があります。教会を駄目にして、分裂を起こします。これは聖霊の一致によるイエス様の証しを一番確実に壊す方法です。ヨハネ**18：36**「イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように、戦ったことでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

### 3. 最高の喜び

詩編**40:8**「わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」

御心を行う喜びは、自分の生まれた目的を果たしている最高の喜びです。

この御言葉はイエス様の生まれる**1000**年前ぐらいに預言されています。新約聖書でイエス様によって成就された預言として引用されています。

ヘブル人の手紙**10:9-10**「また、『さあ、わたしはあなたのみこころを行なうために来ました。』と言われたのです。後者が立てられるために、前者が廃止されるのです。**10:10** このみこころに従

って、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。」

詩編の「私はみこころを行なうことを喜びとします。」と

両方の箇所を合わせて読むとイエス様は自分の命を捧げる時でも、御心に従う喜びがあったと分かります。このイエス様の喜びは最高の喜びとして私達にも与えられています。

ヨハネ15:11「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにある、あなたがたの喜びが満たされるためです。15:12わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

15:13 人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」御心が行われる喜びを体験するならば、自分を犠牲にしてもいいほど愛し合う事が実現出来るようになります。このイエス様の喜びは全て楽に乗り越える浅い喜びではありませんが、主の喜びはあなたの力ですと言う聖書の御言葉通りになります。自分の意志を捧げて御心に服従する意味に於いてイエス様のように兄弟姉妹の為に命を捧げるようになります。

ルカ22:42-44「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」22:43すると、御使いが天からイエスに現われて、イエスを力づけた。

22:44 イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。」大変な苦しみの中でも、深い心の底の喜びがあります。自分が生まれて、命を与えられている目的が実現されている喜びです。どんなに辛くても、私の思いではなくて御心のままにしてください、と祈れる人はイエス様と同じ喜びを経験します。楽ではありませんが、最高の喜びで満たされます。

#### まとめ

御心に服従する事は全ての本当の祈りの前提です。先週は9節でイエス様の名前で祈る為の三つの前提を見ましたが、その三つを合わせてまとめるなら、全てがこの一つの中に含まれています。

「私の思いのままではなくて御心のままにしてください。」です。先週も言いましたが、祈る最大の目的は欲しい物を貰うためではなくて、神様の御心と一つになる事です。神様の栄光と神様の御国の為に祈るのは感謝と、とりなしの祈りです。とりなしとは他の人の立場になってその人の為に祈ることと言われていますが、もっと正確に言いますと、とりなしの祈りは神様の立場になって、イエス様の立場になって他の人の為に祈る事です。それから、自分自身の必要も正しく見えるようになって最後にそれについて祈る事も出来ます。

ルカの福音書の省略した主の祈りは最後に「御国と力と栄とはとこしえにあなたのものだからです。アーメン」が含まれていません。なぜなら、主の祈りの前半をよく考えたら、同じ事を繰り返しているだけだからです。神の国と神の力と神の栄光の為に祈りなさいと言う意味です。